



若年性認知症の人と家族を支える その③

～若年性認知症の人を支えるための取組～

発行：京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課
電話：075 (746) 7734

平成30年3月



平成29年度も様々な機関が、様々なかたちで若年性認知症の方への支援に関する取り組みを行ってきました。これまでもこのニュースで、若年性認知症について取り上げてきましたが、今回は京都市（健康長寿企画課）や京都府で平成29年度に行われてきた若年性認知症に関する取組についてご紹介します。



京都府の取組

若年性認知症支援コーディネーターの配置 (若年性認知症基礎研修(裏面参照)の内容より)

若年性認知症コーディネーターは、平成29年8月7日から京都府こころのケアセンター(京都府立洛南病院)に配置されました。「京都府こころのケアセンター 若年性認知症支援チーム(愛称:おれんじブリッジ)」に所属し、活動されています。

電話相談(「京都府こころのケアセンター」相談専用ダイヤル)、面接相談(来所、予約制)、関係機関との連絡調整や同行支援、本人交流会・家族交流会の開催、若年性認知症支援者研修の開催といった役割を担われています。認知症疾患医療センターから紹介のあった方を対象に支援介入されており、現在の支援対象者は京都府に10ケースだそうです。京都市にお住まいの方へも支援されています。



※若年性認知症支援コーディネーターとは？



若年性認知症の方やそのご家族等からの相談に応じ、利用できるサービスを紹介します。また、若年性認知症の方の不安や思いに寄り添い、地域包括支援センター等地域の機関と連携しながら、自分らしい生活が継続できるようサポートします。

若年性認知症支援に係る支援体制調査の実施



若年性認知症の初期段階で利用することが想定される「障害者就労移行・継続支援事業所」、「介護保険通所介護系事業所・居宅介護事業所」、「認知症カフェ」を対象に、若年性認知症の方の受け入れ経験(過去1年間)と今後の受け入れ可否の調査の結果がHP上に公開されます。

※調査結果は平成30年3月に公開されています。

きょうと認知症あんしんナビ

検索

京都市長寿すこやかセンターについて

若年性認知症について、京都市長寿すこやかセンターでは、本人・家族からの相談への対応や具体的支援に加え、「若年性認知症本人交流会(おれんじサロンひと・まち)」と「若年性認知症の人の介護家族交流会」を開催しています。



「若年性認知症本人交流会(おれんじサロンひと・まち)」では、茶話会や卓球等のスポーツを通じての本人同志の交流や、同じ立場の人たちに自分たちは何ができるか等の活発な意見交換(本人ミーティング)を行っています。

「若年性認知症の人の介護家族交流会」では、勇気を出して参加した家族に対し、先輩家族が医療機関では得られない生活上の工夫や病気の受け止め方等のアドバイスをするなど、仲間づくりとピアサポートの場となっています。

皆様のお近くに若年性認知症の本人や家族が居られましたら、京都市長寿すこやかセンターをご紹介ください。

若年性認知症支援基礎研修の開催



若年性認知症の人やその家族がどこの相談窓口に行っても、適切な支援につなげられるようにすることを目的に、支援専門職の皆さんを対象にした研修を平成26年度から年に1回行っています。

平成29年度は～若年性認知症の人を支える新たな取組～と題して、「若年性認知症の医学的理解」、「若年性認知症を支える制度や窓口」といった基礎的な内容を中心にした研修を行いました。これに加えて、当課で行った障害者地域生活支援センターの皆さまを対象に実施したアンケートの結果報告（障害分野との連携参照）や、若年性認知症支援コーディネーター（京都府の取組参照）を招いてお話しいただき、皆様に地域で若年性認知症の人を支えるためにできることについて考えていただく機会にしました。

出席者からは、「参考になった」「よかった」との声をたくさんいただきました。



障害福祉分野との連携



若年性認知症の人の支援において、多岐にわたるニーズを抱えることが多く、また高齢者の認知症とは異なるニーズがあることが想定されます。例えば若年性認知症の人特有のニーズの一つに「就労」が挙げられます。一般就労を続けることが難しくなってもなお、「働きたい」という希望に沿った支援を提供するため、また介護保険の通所系サービスになじめない場合の日中活動の場として、障害福祉サービスの就労支援事業所の活用が期待されています。そこで必要なサービスにスムーズに繋がる支援体制の構築のため、障害福祉分野の支援専門職の方にも若年性認知症について知っていただけるよう取り組んでいます。

障害者地域生活支援センターへのアンケートを実施

若年性認知症特有の事情により、地域包括支援センターだけで支援を完結させることが難しいケースについて、特に障害福祉分野の制度やサービスの導入が必要なケースでは障害者地域生活支援センターが連携先に挙がると考えました。そこで平成29年度は障害者地域生活支援センターの職員の皆様を対象に、若年性認知症の人の支援や地域包括支援センターとの関わり等についてのアンケートを実施しました。

アンケートでは直接、若年性認知症の方の支援に関わる機会は少ないものの、若年性認知症への関心はあり、特に若年性認知症の方の支援経験のある方は、地域包括センターを含む他機関と連携をして支援されたことがわかりました。

※アンケート結果は健康長寿企画課へお問い合わせください。



「若年性認知症」をテーマにした京都市障害者就労支援スキルアップ研修の実施

京都市保健福祉局障害保健福祉推進室と協力し、「京都市障害者就労支援スキルアップ研修」で若年性認知症をテーマにした、障害者の就労支援事業所職員が対象の研修を開催しました。参加者は、若年性認知症に興味をもたれ、参加者同士の思いを共有できたなどのご意見をいただきました。



編集後記

若年性認知症は、関心はあるもののその数の少なさから、高齢者の認知症と比較すると実際に支援に関わることが少なく関心は低いように思います。多忙な日々を過ごされている皆様に、このような取組を知ってもらい、少しでもお役に立てればと思います。読んでくださり、ありがとうございました。認知症地域支援推進員 平林